

平成30年度市民等からの提案によるごみ減量モデル事業 採択団体一覧

採択団体数8件, 助成総額 3, 000, 000円 (助成種類別・五十音順)

■先進的モデル事業助成(家庭ごみ減量モデル)(1件)

団体名	特定非営利活動法人 環境安全センター	代表者	代表理事 高月 紘
事業名	ごみ減量ボードゲーム「みんなのごみ」		
<p>「みんなのごみ(仮称)」のゲーム最終目的は、プレイヤーみんなで協力してごみを減らし「最終処分場」をあふれさせないこと。ごみ減量に特化したゲームはまだないため、注目され話題になることを期待し、ごみ問題に関心のない人でも小学生から大人まで一緒に遊べるものを制作する。また、プレイヤーにごみ減量のセンス(感覚)を磨いてもらうことに挑戦する。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 454,000円]</p>			

■先進的モデル事業助成(地域活動モデル)(1件)

団体名	株式会社 応用芸術研究所 (「始末のこころ&行動」大作戦実行委員会)	代表者	代表取締役 片木孝治
事業名	地域・多世代連携で家庭内ストック問題を解決するモデル開発		
<p>家庭には、多くの物が眠っており、将来の廃棄物の予備軍であるほか、平常時の生活動線の妨げ、災害時のリスク増大の原因などになっている。片付けは現在、個人の意思と行動力に委ねられているが、特に高齢化・重症化した場合は解決が難しい。そこで、地域ごみ減等において学生等の若者とも連携しながら片付けを行い資源を活かす、実施可能なモデル開発を目指す。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 607,000円]</p>			

■地域活動事業助成(6件)

団体名	一般社団法人日本繊維機械学会 繊維リサイクル技術研究会	代表者	京都工芸繊維大学名誉教授 木村照夫
事業名	廃棄学校制服のアップサイクルによる衣類ごみ減量化の啓発		
<p>2017年度の「先進的モデル事業助成」において、京都市立御池中学校の協力を得て、廃棄学校制服のアップサイクルする、地産地消モデル(仕組み)を試行し検証を行った結果をふまえ、今年度は制服採用の多くの京都市立学校を対象に、より有効で楽しいプロダクトの在り方や制服・繊維リサイクルの学校環境教育への導入について担当の先生方や教育委員会とともに検討を行い、より充実した、全国に水平展開できるようなごみ減量化事業モデル(京都モデル)の確立と啓発運動を行う。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 410,000円]</p>			

団体名	桃山エコ推進委員会	代表者	委員長 大倉正暉
事業名	次世代にひろげる・つなげる ごみ減量のエコ地域づくり		
<p>「次世代にひろげる・つなげる」をテーマに、「生ごみ堆肥化」「ロケットストーブ」等の活動にクッキング・ガーデニング・アウトドア等の知見を盛り込んで、若い世代が楽しめるプログラムを開発します。地域活動の担い手が高齢化するなか、インターネット等も活用して情報発信し、忙しい世代がメリットを得られるごみ減量・エコ活動を地域に定着させ、地域力をより向上させていきたいと考えます。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 232,000円]</p>			

団体名	北区地域ごみ減量推進会議	代表者	会長 山本玉幸
事業名	北区ECOまつり		
<p>北区ごみ減量推進会議では「北区ECOまつり」をこれまでに5回、会場(小学校)を輪番で開催し、ごみ減量の普及・啓発を図ってきた。今回は大宮小学校を会場に、①「ごみ半減」の体験・参加型の催しとし、②各種団体と連携して、準備・運営から参画いただくことによって、ごみ減量とともに地域の課題解決を目指す。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 373,000円]</p>			

団体名	特定非営利活動法人 こどもアート	代表者	理事長 加藤ゆみ
事業名	地域ごみをクリエイティブな創造活動に利活用する GuRuRe(ぐるり)プロジェクト		
<p>GuRuRe:(ぐるり)とは、企業・工場などから出る地域ごみを調査、回収、こどもたちのアートワークショップに活用する企画です。継続的な事業発展をめざしその仕組みづくりを試みます。環境意識促進、芸術・文化活動の活性、創造的な生き方、暮らし、まちをこどもとともに育むプロジェクトです。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 400,000円]</p>			

団体名	特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都	代表者	理事長 澤田政明
事業名	フードドライブ		
<p>家庭にある食品で「買すぎた」「買ったけど口に合わない」「たくさんもらって消費しきれない」など様々な理由の食品を、企業や団体などに協力依頼し、回収拠点を設けて寄贈してもらい、フードバンク活動で有効活用し、家庭ごみ削減を目指す。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 232,000円]</p>			

団体名	一般社団法人 蛍光管リサイクル協会	代表者	代表理事 原 強
事業名	水銀使用製品の確実な回収・適正処理のために		
<p>2013年10月に採択された「水銀に関する水俣条約」に関わる国内対策に必要な関連法や「ガイドライン」等の準備がされてきた。このようななかで、自治体としても蛍光管など水銀使用製品の分別回収の仕組みが準備され、次第に実施にむかっている。また、産業廃棄物としての蛍光管の分別排出・回収のシステムを構築する事業者も増えてきている。この事業は、このようななかで水銀使用製品の確実な回収・適正処理のために、必要な情報を提供し、市民、事業者の意識を高め、そのための取組みが向上することをめざすものである。</p> <p style="text-align: right;">[交付予定金額 292,000円]</p>			